

町民協働による 景観づくり



人口：11,373人（H25.3末）

特徴：鹿児島県北西部に位置し、大小27の島からなる。九州本土と502mの黒之瀬戸大橋で結ばれている。自然に恵まれ、第一次産業を中心とした町。

鹿児島県の北西部に位置し、長島本島、伊唐島、諸浦島、獅子島の有人島をはじめ、27の島々からなる長島町は、平成18年3月、旧東町・長島町の合併により誕生。

長島町では、合併後、町の豊かな海や山の美しい自然や歴史的文化遺産を生かしながら景観づくりを推進しようと、平成19年3月に「長島町ふるさと景観条例」を制定。「石積みと花の町 長島町」をテーマに、町民の意見を踏まえた景観づくりを推進することで、町民の誇れるまちづくりに取り組んでいる。

花と緑を生かしたまちづくり

条例では、景観づくりの具体的目標として、町花（水仙）・町木（ツバキ）を中心とした花と緑があふれるまちづくり、雲仙天草国立公園区域の景観を守り育てる運動の推進、石積みを用いた自然にやさしい道づくり、住民総参加の沿道修景づくりなど、7つの目標を掲げている。

なお、景観づくりを効果的に進めるため、平成22年4月、鹿児島県事務処理特例条例により、町内にある県が管理する道路の除草・植栽物の管理について権限移譲を受けた。



町と町民が協働で整備・管理する沿道の花壇

協働による景観づくり

町では、条例に定められた目標を達成するため、景観づくりに積極的に取り組む団体・個人と協定を結び、協働して景観づくりに取り組んでいる。

その中心となる活動が、町で最大の島である長島本島を一周する約40kmの沿道を花で結ぶ「ぐるっと一周フラワーロード事業」。沿道の約200か所に地元の自然石を積んだ花壇を作り、町民や約150の団体等が花の植え替えや除草などの花壇の管理を行っている。



11万人が訪れた花フェスタ

フラワーロードは貴重な観光資源に

様々な花で彩られた沿道は町内外から高い評価を受け、平成21年度の全国花のまちづくりコンクールでは優秀賞を受賞。ボランティアで花壇の管理を行う町民からは「集落の花壇は、以前は花がなく寂しかった。これからも楽しみながら続けていきたい」といった声が聞かれる。

また、フラワーロードは、町の重要な観光資源として効果を発揮。平成25年に開催された「第3回夢追い長島花フェスタ」では、町内外から118,000人もの人々が町を訪れた。



ボランティアによる植栽

地方分権改革との関連

合併した2町の融和を図るため、「ふるさとの景観づくり」に取り組んだ長島町。町民と行政の協働は大きな実を結び、「石積みと花の町 長島町」として住民が誇れるふるさとを作り上げ、次世代へ夢をつないでいく。

関係者からのメッセージ



本町は、平成19年に「長島町ふるさと景観条例」を施行し、「石積みと花のまち 長島町」をテーマに自然と自然石を生かした景観づくりを推進しています。

1年を通して本町を訪れる観光客を花々で出迎えられるよう、町民と行政が一緒になって景観づくりに励んでいます。

「町民が自分のふるさと長島を町外に誇れるようなまちづくり」を実現するため、これからも町民一体となって自然にやさしい景観づくりを推進していきたいと思えます。

(長島町景観推進課課長補佐
村上 繁己氏)